慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	詩と映像と音響の融合：表象として（その一）： 日本フランス語フランス文学会発表報告
Sub Title	Exposé de la Société japonaise de la langue et de la littérature française: Fusion de poème, d'image et de musique —comme représentation (1)
Author	小潟, 昭夫(Ogata, Akio)
Publisher	慶應義塾大学日吉紀要刊行委員会
Publication year	2007
Jtitle	慶應義塾大学日吉紀要. フランス語フランス文学 (Revue de Hiyoshi. Langue et littérature Françaises). No.44 (2007. 3) ,p.19- 48
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Departmental Bulletin Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN10030184-20070331-0019

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

日本フランス語フランス文学会発表報告

詩と映像と音響の融合
——表象として（その 1）

小　潟　昭　夫

はじめに

2001 年の年末に「瀧口修造造形的実験展」を見て以来、筆者に襲ってきたテーマが詩と映像と音響の融合の実験的試みであった。2002 年「コラボレーション音と映像と香りの融合」展、2003 年通信教育部夏期スクーリング『映像と音のコラボレーションコンサート』、2004 年「雷サミットⅢ」での「魔神～ Les Djinns」、2005 年 3 月 15 日「文学と音楽」（パリ第 3 大学）、2004 年 8 月 22 日通信教育部夏期スクーリングフランス語映画上映会「映画と音楽」、2006 年慶應義塾大学新入生歓迎行事増永玲未ピアノリサイタル「フランス流花鳥風月——表象として」など、一連の活動を通して感じ考えたことを表象文化の一環として纏める。

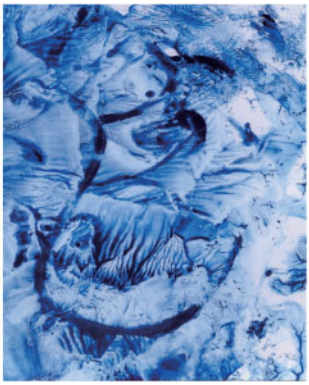
1　映像と音楽の融合

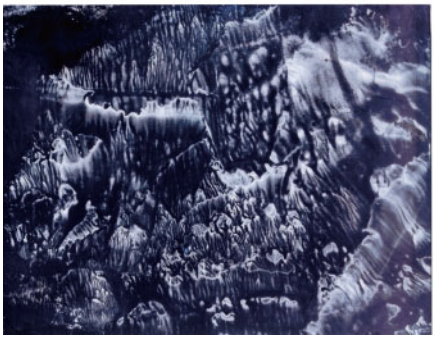
異質のメディアの配合によってより強度な作品を制作するというマクルーハンの考え方に則って試み始めたのが､2002 年 2 月から 3 月に掛けての「デカルコマニー幻想曲」で、初めに画像制作があり、その画像に刺激されてシンセサイザーによる音楽制作が続き、その後、音楽を聴きながら複数の画像をその音楽に合わせて編集するという手順を踏んだ。

1–1　なぜデカルコマニーなのか？～偶然の出会い

偶然の出会いとしかいいようがない。旧研究室のフランス語合同研究室の机の上に置いてあったチラシと入場券（慶應義塾大学経済学部教授で 20 世

紀芸術研究会の代表であった田中淳一氏の好意による）を手にした私は、師走の渋谷の街を横切って区立松濤美術館へ訪れた。2001 年 12 月、「瀧口修造の造形的実験」展覧会が催されていたが、そこで見たデカルコマニーは、衝撃的だった。つるつるした白い紙の上に絵具をたらし、少しばかりの水を降りかけて、もう一枚のつるつるした紙を重ねて、瞬時に離すと、なんと不思議な宇宙的画像が出来上がるではないか。飛行機から眺めたアラスカの原野のような映像だ！　美術評論家とただの鑑賞者との出会いがあった。私は誰にでもできそうな造形体験としてのデカルコマニーに惹かれ、家に帰って、我が家の狭い場所で夜中黙々とプリント用紙やカレンダーの裏に絵具をたらし、水をふりかけ、もう一枚のつるつるした用紙を重ねて、ぱっと離す。瀧口修造が制作した画像に似ているものもあったが、そうでないものもある。穴ぼこがあいたものや、原始林のような不思議な画像に眼を見張る思いだった。新聞紙をひろげ、水浸しなった床を拭きつつ、真夜中一人ぼっちで、ぶつぶつ言いながら、感動の歓声や驚きの声を押し殺しながら、一枚一枚作り上げていった。ものを作るってこんなに楽しいことなのかということを味わいながら、興奮状態でデカルコマニーの宇宙へのめりこんでいった。最初は、瀧口修造の真似をやっていたが、そのうちだんだん色彩鮮やかな世界へと方向を転換し、赤や黄やオレンジ色を混ぜて、よりカラフルな画像を作り上げていった。火山の爆発、生命の誕生、火事、情熱、水面、海面、嵐など、さまざまな宇宙の相貌が現出され、この年の冬休みの 2 週間は私にとって生涯忘れられない創作体験となった。水彩絵具が乾くや、早速スキャンしてフォトショップで A4 サイズに拡大してプリントアウトしてみた。そうすると、画像の細部が鮮明にしかも光沢プリントされているではないか。あの神秘的な線の揺れや弾き出されたような水滴が、写し取られている。宇宙の生成はデカルコマニーのようにできたのではと、私の脳裏を過ぎった。宇宙論学者の言説に「真空のエネルギー」というものがあるが、デカルコマニー体験で感じることは、絵具をたらし、水をふりかけ、紙を貼りあわせるとき、一瞬、それは真空ではないのだろうか、そして瞬間的に二枚の紙を離す行為は、「真空のエネルギー」の体現ではないか、私は勝手に夢想していた。私の精





décalcomanie の例

神的な師、フランスの哲学者ガストン・バシュラールの著書に、『夢想の詩学』や『空間の詩学』があるが、デカルコマニーを前にしてバシュラールはどんな夢想をしたのか、大変興味深い。パソコンのプリンター用紙でつるつるしたものを使い、大きさははがきサイズ。狭い机では、何枚もぬれた用紙を干さなければならないから、この大きさがベターだった。一晩で、20 枚ぐらい作ったが、一つとして同じ画像はなく、すべて偶然の産物だ。デカルコマニーの発案者は、オスカー・ドミンゲスといわれており、その偶然性による創造過程から制作者の無意識を表現していると考えられ、シュルレアリストたちに受け入れられた転写技法である。時には神の摂理に思える神々しい画像、時には、悪魔や怪物が、龍や鬼のように見える画像。見る側の無意識をも表している可能性もあり、ロールシャッハテストの画像を思わせる。この予想ができない仕上がりに私はますますのめりこんで入った。そして、それらのぬれた画像が乾いてきたら、スキャナーでスキャンし、プリントアウトをする。そうすると、原画とは味わいの違う画像となって、微細な部分が拡大され、その仕上がり具合にも目を見張るものがあった。スキャナーというメディアを通すことで、原画は異化され、別の様相を帯びる。

火山噴火の跡のような画像、雪崩にあった雪山のような光景、大自然の様相がデカルコマニー創作では可能になる。私は約 80 点の画像を、冬休みの 2 週間で、制作した。絵具や水の量を加減して瞬間的に紙を張り合わせ引き離すことで、できる画像をスキャナーでデジタル化し、フォトショップでイメージを拡大して、プリントアウトすれば、立派な芸術作品が出来上がるのである。早速、私は経済学部の「自由研究セミナー」の学生たちに A4 版にプリントアウトした 80 枚のデカルコマニーの作品を見せると、彼らは私の作品に眼を見張り、驚いていた。

1–2　デカルコマニーに音楽を付ける――映像と音楽の融合の実験的試み

これらのデカルコマニー作品群を見た自由研究セミナーの学生のひとり井口拓磨君（現在サウンド・クリエイター）が、これに刺激を受けて、コンピュータ音楽を作ってきた。私は即座に「デカルコマニー幻想曲」と命名し

た。彼の音楽の作り方は、Acid という音源ソフトを使用し、実際のピアノの演奏あるいはシンセサイザーの音楽をパソコン上でミキシングするという作曲法である。こうして映像と音響の融合の実験が始められた。 パソコンの力を借りてメディアとしての映像ともうひとつのメディアとしての音響が融合し、雑種のエネルギーとしての相乗効果によりさらなるハイテンションの世界が演出できる。マクルーハンが『メディア論』のなかで、「メディアの雑種化あるいは異種交配は、さながら核分裂あるいは核融合のように、大きな新しい力とエネルギーを放出する。」と言明しているように。しかもコンピュータという優れた道具は、そうした異種混合の手助けをする格好のメディアなのだ。Premiere や AfterEffects というソフトは、スキャンしたそれぞれのデカルコマニーの画像を、映画の 1 コマ 1 コマのようにビジュアル・バンドに並べ、それにオーディオ・バンドに音楽をつけていく。特に AfterEffects というソフトは、画像を拡大したり、縮小したり、パンしたり、動きまわしたり、回転したりすることができ、サウンドクリエーターが作ってきた音楽のバンドに、画像制作家が作ったデカルコマニーを並べると、その画像たちが生き生きと甦ってくるではないか。絵を描くことも音楽を作曲することも知らない私が、パソコンでアーティスティックな作品を生み出すことができるなんて、世の中も変わったものだと驚きながら、AfterEffects に夢中になった。

私は『デカルコマニー幻想曲』を交響曲のように、

第 1 楽章　青　〈氷河と海原〉
第 2 楽章　緑と赤　〈傾斜する大地〉
第 3 楽章　赤　〈爆発する火山〉
第 4 楽章　緑と青　〈地表と海中〉

と、考えたりしたが、ニューエイジの井口君はもっと柔軟な東洋的な音楽をまじえて交響詩のようなものを作曲してきた。あるいは、宇宙現象として『デカルコマニーの宇宙』を以下のようにイメージした。

1）大海原　2）海の嵐　3）大空　4）氷河期の地球　5）クレバス　6）大雪原　7）流れる　8）ナイヤガラの滝のような自然界　9）生命の根源

10）地球の発熱　11）夜の森林　12）闇の原野　13）爆発する大地　14）屹立する宇宙　15）溶岩の流れた跡　16）雲の中　17）怪獣と地球　18）海中の不思議　19）赤と黄と青と藍と緑と　20）北極界

こんなイメージが私の制作したデカルコマニーの画像から浮かんできた。さて作曲家の井口拓磨君はどんな気持ちで音楽をつけたのだろうか。映像作家と音響制作者との微妙な交感があって、クリエイティヴな作品へと向かうものと思われる。

展覧会に来た学生たちはどんな反応を見せたのか、いくつかの例を挙げて見よう。

まずデカルコマニーの画像について、その変幻自在な姿、見る人によって様々な見方ができることに感心していて、学生自身もやってみたいという気を起こさせていた。

・1 枚の白い紙の上で、様々な色の絵の具が、交じり合う様子がおもしろいと思った。その交じり合うさまは、それぞれの色が時には、ほかの色を浸していくように見えたり、時にはお互いの色同士が強調しあって手を結んでいるように見えたりして、何かを訴えているかのように見えた。また、同じ色の絵の具でも、濃淡、色の調子などで、こんなにも違った作品ができるということに驚いた。とくに、黒や紺の作品シリーズは、荒れ狂う海に見える作品もあれば、闇にそびえる山に見える作品もあり、見ていて楽しかった。そして、同じ作品でも、見る人によって様々な見方ができる点も面白いと思う。身近な材料でできるそうなので、私も 1 度挑戦したいと思う。（経済 2）

・一言で言えば、とても不思議な絵である。あえてこの世に存在する特定の「何か」を描いているのではなく、かといって、この世の中の何物でない訳でもなく、海の中のような、青い空を描いているような、雷雨の空を描いているような、中国の山水画のような。自分が想像することによって、様々な絵に変化していく。この絵は、1 枚だけ飾ってあっても、

その不思議な変化はしない気がする。多すぎず、少なすぎず。微妙であるが、1つの空間に適度な絵を飾ることで、その絵たちの相乗効果か何かで、見る人の想像力で、様々な様態になる。集団になることで、1つ1つの絵の個性が浮き出てくるというのも不思議である。（経済2）

・第一印象は、すごくグロテスクなんだけど、なんとも言いようもない美しさを持った作品だと思いました。この独特の雰囲気は、絵画だけではかもし出すことができないでしょう。やはり、学生が作ってくれたという素晴らしい音楽と、アロマテラピーの効果があってこそのものだと思います。視覚、嗅覚、聴覚から来るものが、三位一体となって独特の感覚を私の中に引き起こさせていると感じました。それから感じるものは、壮大な宇宙レベルでのもの、そして、分子レベルでのミクロな世界観です。なんと言うか、人類だけでなく、生命を持ったものすべてがうまれながらにして持っている、記憶のようなものを呼び起こしてくれるような気がしました。（経済2）

・デカルコマニー作品は、見る者の感じ方によって全く違ったように見える。感じ方だけでなく、見る者の精神状態によっても変化する。怒り・悲しみ、喜び……あらゆる感情、感覚を全て包括しているようである。映像が単なる記録でしかなかったものを、いつしか芸術として表現するようになったことは、人々の心模様も多様になったからではないかと思う。（文1）

見る人聴く人の想像力に訴えた作品として、デカルコマニーの試みは意味があったのではないかと、思われる。ある人は、浮遊感を感じたといい、ある人はミクロの世界を想像したという。無意識界をえぐるような作品に仕上げたいものである。

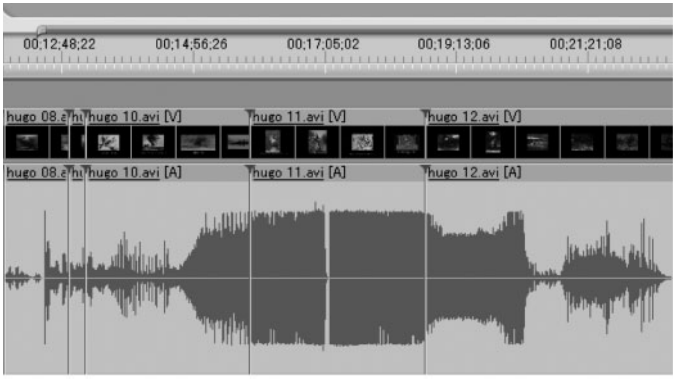
2–1　ヴィクトル・ユゴーのデッサンと音楽の融合

2002 年は、私が専門としている作家ヴィクトル・ユゴー（1802 – 1885）の生誕 200 年を記念する年だった。と同時に慶應義塾大学日吉研究室〈来往舎〉の落成と教養研究センター開所の年であった。で、2002 年度慶應義塾大学新入生歓迎行事の一環として、「映像と音と香りの融合」ヴィクトル・ユゴーのデッサンとデカルコマニーの展覧会を 2002 年 4 月 18 日（木）～ 4 月 27 日（土）、来往舎 2 F ギャラリーで開催した。

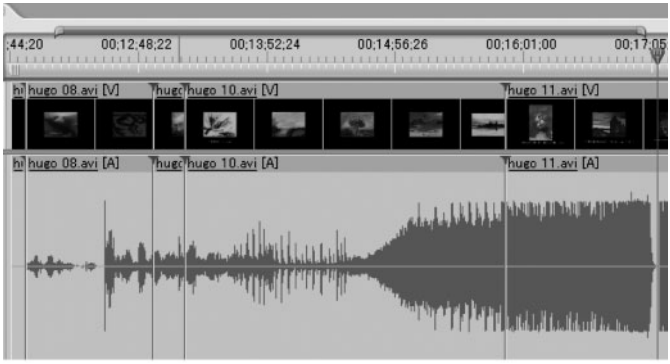
ユゴーのデッサンを、全集や画集や研究書からスキャンした素材を 200 点位フォルダに入れた。ヴィクトル・ユゴーのデッサン画家としての優れた面は一目瞭然であるが、生涯にわたって描き続けたデッサンを再現することは、彼の文筆活動の歴史を辿ると同じ程、ユゴーの人生の軌跡を辿ることができるだけでなく、ユゴーの創作の秘密を知る上でも有効な作業である。そしてなによりも 19 世紀の作家ユゴーを、今日に甦らせることこそ、研究者としての私の使命であると思う。旅の途中で描いた風景画が基点になっていて、揺れる樹木や湖に浮かぶ都市さらには山に聳え立つ要塞、海辺の灯台といったテーマが目立つ。私は、学生に画像データを提供し、彼らなりの頭と感覚で得たユゴー像を作ってもらい、19 世紀のユゴーが現代の若者の脳裏に甦り、生き返ることを願った。

ユゴーのデッサン集から特徴的な作品をスキャンし、CD に保存したものを、私は井口拓磨君に手渡した。彼はそれらの画像を見て、ユゴーの人生をイメージし、彼なりに物語を作って、画像を並べ、それに音楽をつけてきた。音楽は、彼が音楽教室での発表曲ドビュッシーの前奏曲から「沈める寺」をミキシングした曲だった。ドビュッシーの「沈める寺」は、ピアノによる鐘のイメージらしい楽曲からなる、6 分少しの曲である。これにコンピュータ音楽をミキシングして、パソコン上でクレッシェンドしていく音の増幅が不気味な恐怖感をもたらすのだが、11 分あまりの不思議な曲になった。ユゴーの生涯に流れる死の恐怖が実によく表現されていた。井口君はユゴーのデッサンの数々から旅と死のテーマを嗅ぎ取っていた。それから難破する船、大きな波に呑み込まれそうになる「わが運命」など、水や海さらに

は航海、嵐を主旋律とした。インクやグアッシュさらにはコーヒーの残りかすなど、既成の画家の手法にこだわらず、自由奔放に描いたユゴーのデッサン。「十字架のある要塞」を山場に持ってきて、それからユゴーのユーモラスなデッサン、ジョン・ブラウンの処刑された瞬間を絵にした Justitua（正義)、「中国の焼き絵（シノワズリ)」、切り絵、将来を予言するような 15 歳のときのデッサン、小説のなかのイメージ、ゲルヌゼー島のオートヴィルハウスのインテリアなど、個人史はもとより多様性とバロック性と社会性が表象されている。以下、どんな画像が使用されたか、時系列で追っていき、音楽との関連を記述する。



「ヴィクトル・ユゴーのデッサン」オーディオ・バンド波形全図



「ヴィクトル・ユゴーのデッサン」オーディオ・バンド波形図前半

Dessins de Victor Hugo

0:00:07

0:00:12 LE MYTHEN 1839、ペン画、墨汁と褐色のインクの淡彩画、水彩、木炭、石墨使用。

0:00:35 BORD DE MER en exil 「海辺」亡命期　褐色インク

0:00:51 ESQUISSE DE PAYSAGE 「風景素描」 ペン画、インク淡彩画

0:01:03 MARINE 1856「海景」 ガーンジー島　セピア淡彩画

0:01:18 DEUX ARBRES DANS UN ILOT vers 1847 「小島の二本木」ペン画と褐色インク淡彩画

0:01:32 LE CHATEAU DANS LES ARBRES vers 1847 「樹木の中の城」ペン画と褐色インク

0:01:45 A PAUL MEURICE 1868 「ポール・ムーリスへ」 ペンと淡彩画

0:02:00 ESQUISSE en exil 「素描」亡命期　インク淡彩画

0:02:15 L'OMBRE DE MANCENILIER「マンスニリエの影」(『静観詩集』より)

0:02:27 VOILIER ET CLOCHER DANS L'ESTUAIRE 「河口での帆船と鐘楼」

0:02:41 PAYSAGE DE TROIS ARBRES 1850 「三本の木のある風景」褐色、黒色インクと鉛筆

0:02:56 ARBRE COUCHE PAR LE VENT 「風で倒れそうな木」1847　ペンと淡彩画

0:03:16 LE CHAMPIGNON 「茸」 ペンと淡彩画と水彩画

0:03:28 MARINE 1865 「海景」褐色インクと水彩画

0:03:44 LES CASQUETS 1864 「カスケット」褐色インク『笑う男』より

0:03:58 VILLE EN PLAINE en exil 「海原の中の町」

0:04:13 VILLE AU BORD D'UNE LARGE ETENDUE D'AUE vers 1837-43「大きな水辺の町」ペン、褐色インクの淡彩画、白のグアッシュの加筆

0:04:27 VILLE AU BORD D'UN LAC vers 1850「湖畔の町」ペン画、インクの淡彩画、グアッシュ

0:04:41 SOUVENIR D'UN BURG DES VOSGES 1867 「ヴォージュ山脈の要塞

Le Mythen

Esquisse de Paysage en exil

Marine 1856

Esquisse en exil

Voilier et clocher dans l’estuaire

Le Champignon

の思い出」 ペンと淡彩画、グアッシュ

0:04:55 LE BURG A L’ANGE「天使のすむ城」 インクと水彩

0:05:05 DEUX TOURS RELIES PAR UN BATIMENT 1846 「建物で結ばれた二つの塔」ペン画と褐色インクの淡彩画

0:05:14 VIEUX BURG DANS L’ORAGE vers 1840「嵐の中の古城」ペン画、褐色インクの淡彩画

0:05:24 LE PHARE D’EDDYSTONE 1866 「エディストーンの灯台」

0:05:30 LE GAI CHATEAU 「陽気な城」ペン画、淡彩画、水彩画、字消しナイフ

0:05:36 PAYSAGE ET CHATEAU 1850 「風景と城」ペン画、墨汁の淡彩画

0:05:47 BURG 1855-56 「要塞」 ペン画、インクの淡彩画、グアッシュ

0:05:49 VIEUX GUERNESEY, ENCEINTE DU SAINT PIERRE PORT vers 1865 「古いガーンジー島、セイント・ピーター港の要塞」『海に働く人々』のためのデッサン、ペン画、褐色インクの淡彩画、グアッシュ

0:05:55 BURG A LA CROIX 1850 「十字架のある要塞」ペン画、インクの淡彩画、グアッシュ

0:06:10 LE SERPENT en exil 「大蛇」亡命期 褐色、黒色インクの淡彩画、石墨、グアッシュのハイライト

0:06:14 DECOUPAGE 「切り絵」 ペン画、水彩画

0:06:17 Mort de Cor.Manlius 「コル・マンリウスの死」(「コレージュのノートより」)

0:06:18 Parcere subjectis et debellare superbos 「勝者を許し、反逆者を打ち負かせ」

Pardonner aux vainqueurs et vaincre les Rebelles (「コレージュのノートより」)

0:06:20 DRAGON vers 1856 「龍」 ペン画、褐色インクの淡彩画、石墨

0:06:22 DRAGON vers 1856 「龍」 ペン画、褐色インクの淡彩画、石墨

0:06:25 DRAGON vers 1856 「龍」 ペン画、褐色インクの淡彩画、石墨

0:06:27 JUSTITIA 1857 「正義」 黒鉛、褐色、黒色インクの淡彩画、木炭、グ

Le Phare d’Eddystone

Ville au bord d’une large étendue d’eau

Burg à la Croix

Dragon

Justitia

アッシュ

0:06:33 LES CHANSONS DES RUES ET DES BOIS 1859-65「通りと森の歌」インク、淡彩画、水彩画

0:06:40 LE LEVER DE DUCHESSE JOSIANE *DE L'HOMME QUI RIT* 「皇女ジョジアヌの寝起き姿」(『笑う男』より)

0:06:41 La plus jolie de l'école 「学校で一番かわいい子」 羽根ペン

0:06:45 Séduire l'épouse de mon ami! que me proposez-vous là? 「わが友の妻を誘惑する！」羽根ペン

0:06: 51 Je vous y prends donc, petits drôles! vers 1835 「腕白小僧、お前を捕まえたぞ！」羽根ペン

0:06:56 CHINOISERIES-（Pyrogravure）「中国趣味の小装飾＝焼き絵」ジュリエット・ドゥルーエに買い与えた「オートヴィル・フェアリ」の食堂に飾ったもの

0:06:58 CHINOISERIES

0:07:02 CHINOISERIES

0 :07 :05 CHINOISERIES-V. H　椅子の影が VH

0:07:12 CHINOISERIES

0:07:17 MISERIA pour le frontispice *des Misérables* 「ミゼリア」(『レ・ミゼラブル』の口絵)

0:07:20 Propriétaire d'un coutre

Pas du tout frâché de la catastrophe *pour Les Travailleurs de la Mer*　犂刀の所有主カタストロフにちっとも腹立たず 『海に働く人々』

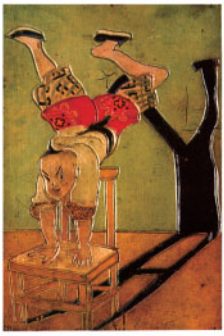
0:07:24 GAVROCHE A ONZE ANS 「11 歳のガヴロッシュ」(『レ・ミゼラブル』より)

0:07:26 ROI DES AUXCRINIERS 「オークリニエの王」(『海に働く人々』より)

0:07:31 L'ESPRIT DE LA TEMPETE DEVANR GILLIATT 「ジリアットの前を過ぎる嵐の精霊」ペン画（『海に働く人々』より）

0:07:37 HUGO, LA PORTE DU CHATEAU DE GROS-NEZ, à Jersey 「先頭アーチあるいはグロズ＝ネ城の廃墟」

Chinoiserie



Chinoiserie VH

Torquemada

Silhouette de château illuminé
par un orage

Marine en 1865

Femme à demi dévêtue

0:07:44 SILHOUETTE DE CHATEAU ILLUMINE PAR UN ORAGE vers 1857 「嵐よって照らされた城のシルエット」

0:07:54 LE DICK vers 1854 「ディック（ジャージー島の防波堤）」淡彩画、グアッシュ、ニス塗り

0:08:04 CHATEAU DE VIANDEN 1871 「ヴィアンデン城」

0:08:17 PHARES DE CASQUETS *de L'Homme qui rit* 「カスケット灯台」

0:08:31 LES ORIENTALES 1855-56 「東方的なもの」黒、青、赤、金のインク、水墨画、グアッシュ、レース模様に縁取られている　イニシャル　ＶＨ

0:08:46 TORQUEMADA en exil 「トルケマダ」亡命期　インクの淡彩画、グアッシュ

0:09:01 VASQUE AU MILIEU D'UN LAC「湖中央の受水盤　想像的な風景」淡彩画　木炭

0:09:13 CITE MEDIEVALE Effet de façade 「中世の町、正面の効果」

0:09:28 BURG DE HUGO TETE-D'AIGLE 1850 「ユゴー城、鷲の頭」セピアのインク　褐色グアッシュ　石墨

0:09:47 MAISON ISOLEE SOUS L'ORAGE 「嵐の中の孤立した家」

0:09:56 LE BATEAU-VISION vers 1865「幻視としての船」

0:10:08 LES TRAVAILLEURS DE LA MER 「海に働く人々」蛸　ＶＨ

0:10:16 LES DOUVRES *des Travailleurs de la Mer* 「ドゥーブル」（『海に働く人々』より）

0:10:21 LE REVE 「夢」

0:10:26 MARINE vers 1866 「海景」 ペン画　インクの淡彩画

0:10:36 MA DESTINEE 1857 「わが運命」 ペン画　インクの淡彩画　グアッシュ

0:10:48 TROIS MATS pour *Les Travailleurs de la mer* 「三本マスト」（『海に働く人々』より）

0:11:02 TEMPETE DE MA FENETRE 1854 「わが窓よりみた暴風雨」ペン画　褐色インクの淡彩画

0:11:22 MARINE en 1865 「海景」

Le Bateau-Vision

Ma Destinée

Trois mâts

Maison isolée sous l’orage

Le Pieuvre (*Les Travailleurs de la mer*)

水が滴り落ちる音からはじまり激しい暴風雨と荒波にもまれて最後の沈める鐘の音で終わるという構成になっている。クロノロジックに並べたというよりは、テーマチックに並べたといったほうがよく、それでもユゴーの人生を反映した並び方になっている。冒頭の「Le Mythen」1939 は、ユゴーのデッサン画の歴史では、比較的初期の作品で、具象的な画風である。ユゴーが旅先で描いたデッサンは、風景の素描、風で揺れ動いている樹木、樹木に隠れている城、湖に浮かぶ都市風景、夫人が日傘をさして遠くの町を見ているように見える大きな茸、いわゆる海景、灯台、平原に見える都市、水面に浮かぶ都市、蜃気楼のような都市、湖の辺の都市、二つの塔、嵐の中の古い城砦、エディストーン灯台、さまざまな表情を持つ城、そして十字架の要塞（05:55）で、前半の音楽のピークに達している。

ここから趣を変えて、大蛇、不死鳥とつづき、15 歳のときにユゴーがノートに書いた落書き、龍、ジョン・ブラウンの死刑をヴィジュアル化した Justitia、横たわる女性、『笑う男』の皇女ジョジアヌなど、死刑囚の身体や女体が強調され、娘レオポルディーヌやほかの子供たちに描いたユーモラスなタッチのデッサン、中国の風俗を素材にした焼き絵シリーズ（これもユーモラスなタッチ）、それから『レ・ミゼラブル』の口絵 Miseria、『海に働く人々』の船主、11 歳のガヴロッシュ、『海に働く人々』のオークリニエの王、ヒーロー・ジリアットの目の前を通過する嵐の精霊、尖塔アーチあるいはグロズ＝ネ城の廃墟といった後期の小説群を題材にしたデッサンの数々、1857 年の「嵐によって照らされた城のシルエット」によって超現実主義的な絵の先駆けを示し、ディック、ヴィアンデンの城、カスケットの灯台、東方的なもの、トルケマダの一連の画像の幻想性がコンピュータ・ミュージックをミキシングすることでハイテンションへと導き、一種の恐怖感すら喚起する音楽となっている。湖の真ん中の水盤、中世の都市のファッサード、鷲の頭の城といったユゴーのメインテーマが繰り返され、嵐の中で孤立した家、幻視としての船、『海に働く人々』の蛸とドゥーヴル島、夢、そして大波に呑み込まれる難破船＝ Ma Destinée で最高潮に達する。後半の山場である。（10:36）そしてフィニッシュに向かうべく、三本マスト、窓から見た暴風

雨、そして海景へと収束するのである。（11:38）最後の、鐘を表象するドビュッシーのピアノ音が効果的に挿入されている、というよりそれが強烈なアクセントになっている。

ドビュッシーとコンピュータ音楽のミキシングという新しい分野に、ユゴーの画像を乗せることの、メディアの相乗効果が見られたと思われる。

・はじめ、1つ1つの作品をなんとなくバラバラにみていたとき、単純にその色や形がおもしろいものだなと感じた。でも、ドビュッシーの音に合わせ、また、テーマを持って作品をならべていると知ってからは、一つのボードをまとまりとしてみることによって、一つ一つの作品がたとえば、水の動きといったように意味を持つものとして感じられ、また、それぞれがストーリーを持つものとして、互いに関連し合っているものとして見えた。ここの作品を集合させることによって、互いの意味や深みを高めているようだった。音との融合については、今までこのように音楽と合わせて見る作品を体験したことがなかったので、新しいものを見るようで、興味深くて大変面白かった。時折かすかに薫るお香の香りが、この新校舎と、パソコンを使った新しい時代の芸術と合わさって、神秘的な気分を感じさせた。（経済2）

・映像と音楽の融合ということで昔の作品と、ユゴーのデッサンとコンピュータ音楽の作品の両方を見て、たとえセリフや大したストーリーがなくとも、映像と音楽だけでここまで表現できるのだ、と感銘を受けました。ユゴーのデッサンはとても美しい色彩と独特の雰囲気を持った絵が、現代的なコンピュータ音楽によって意外にも映えるのだというのが、驚きでした。不思議な魅力が、より一層音楽によって引き出され、一つの世界を作っているのが、とても面白かったです。自分も、コンピュータを利用して、できることならやってみたいと思いました。（文1）

・映像と音楽をあわせる、そうすると2つの世界観が融合して新しい感動と効果が生まれる。授業中に見たものは特に映像が不可解なものであったため、

見るほうの想像力を書き立てられ、もう一つのイメージが頭の中で生まれる。これは個人によって変わるものなので2つとして同じ物がないため余計におもしろい。つまりただ見る、聞く、というものから「体験する」という段階に変化するのだ。（経済2）

・音楽は、映像に合わせて制作されたものであるはずにもかかわらず、映像が音楽にあわせて躍動しているように見えるから不思議である。穏やかな雰囲気の音楽のときは映像も静寂の中あるように感じられるし、またリズミカルな雰囲気の音楽の時は映像もにぎやかに感じられる。音楽と映像のコラボレーション――互いが自身だけでは持ち得ない味を、ドッキングさせることで新しいものに変化しているのだといえよう。（文1）

新しい形での作品の鑑賞法として美術館などでも試みてもよいように思われるが、いかがなものか。

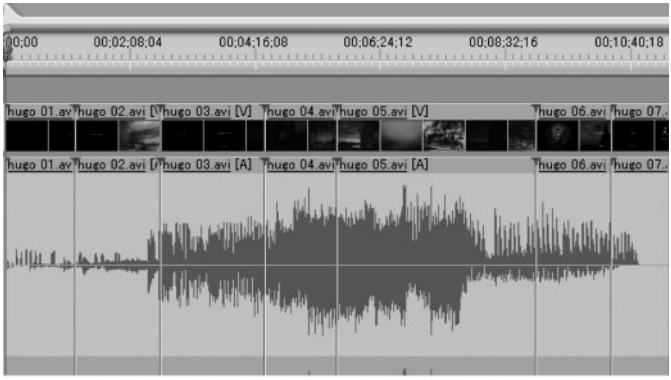
『魔神～ LES DJINNS』の制作に向けて

2003年3月に山形県鶴岡市にある慶應義塾タウンキャンパス鶴岡で、雷サミットIIが開催された。自然科学者や社会科学者や人文科学者たちと、避雷針や雷のプロテクターを作り販売している企業人、そして鶴岡市役所や住民の方々が集まって〈雷〉について侃々諤々論じあう会合で、夜はホテル雷屋で新鮮な海の幸に舌鼓を打ちながら、和太鼓ショーを楽しんだ。私は、「ヴィクトル・ユゴーと雷の詩学」という演題で発表したが、そのときに閃いたのは、井口拓磨君たちと雷をテーマとしたパフォーミングアーツを作ってみてはどうかということだった。雷サミットのこと、SFCの学生たちが雷クイズショーを運営していること、とりわけ東京大学先端技術研究所の妹尾堅一郎教授の活躍のことなどを話題にしながら、それとなく、雷に関する音楽と映像の融合コンサートをやってみようじゃないかと、井口君に打診をした。私が発表した「ユゴーと雷の詩学」のレジュメを彼に渡し、早速、雷の音源探しや雷の画像探しから活動を開始した。まず音羽電気工業（株）の

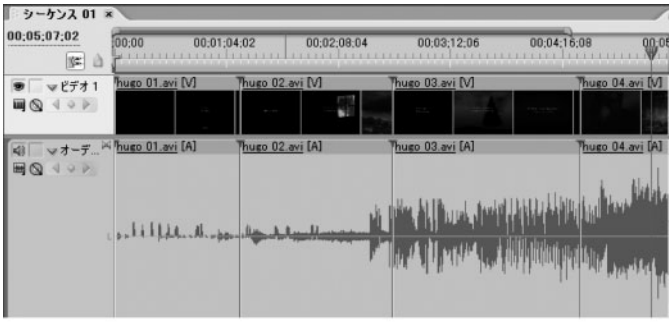
吉田修社長に手紙を書き、雷サミットでいただいた『雷とその姿』の画像を使わせてもらいたい、雷の現実音のデータがあれば借りたい旨を書いた。すると、すぐに東京支社部長・木村順一氏が「雷鳴り」という CD を三田まで持参してくれた。そして今度は、生誕 200 年記念のシンポジウム「ヴィクトル・ユゴーの運命」でお世話になった南山大学のパトリック・レボラール氏に、5 月の学会のときにユゴー『東方詩集』の「魔神（ジン）」の朗読をお願いした。そうしたら快く引き受けてくれ、7 月の上旬に慶應義塾大学日吉キャンパスに来てくれた。井口君はじめ商学部の多田宣弘君や自由研究セミナーの学生たちが見ている中で、視聴覚教室の録音室で小一時間、「魔神（ジン）」と『海で働く人々』の断章を朗読してもらった。物静かないかにも東洋好きといった風貌のレボラールさんから、録音室の窓越しに「Murs, ville /Et port, /Asile /De mort. /Mer grise /Où brise /La brise; /Tout dort.」と始まり、2 音節から 3 音節、4 音節、……そして 10 音節の高みまでクレッシェンドしていき、やがて静かにデクレッシェンドしていった。大枠が出来てきたところで、今度は、ホテル雷屋の和太鼓ショーに出向いて、和太鼓のサンプリングに行くことになった。8 月上旬の日曜日に合わせて、ホテルを取ってもらい、井口、多田両君と私で向かうことにした。ホテル雷屋では社長本間廣一氏自らが空港に出迎えてくれた上に、サンプリングの和太鼓を叩いてくれるという。いくつもの太鼓が大広間の舞台に設置されてあった。井口・多田両君がサンプリングの注文を出し、私はもっぱらデジタルビデオカメラでその模様を撮影した。学生たちは、イアホーンを本間氏の耳に掛けさせ、メトロノームのリズムを聴かせながら、それにあわせて太鼓を打ってくれと、注文を出していた。本間氏の戸惑った表情が忘れられない。私はここに西洋音楽のリズムと和太鼓という東洋音楽のリズムとの融合する瞬間に立ち会っているのだなと、妙に感動していた。本間氏はメトロノームのリズムをもっと速くするよう要求してきた。学生が応じると、表情が和み、にっこりとした。こんな風にして、和太鼓ショーの前に様々なリズムや音色や打ち方のサンプリングを行った。8 月 23 日の三田北館ホールでの本番まであと 2 週間しかなかった。いつものように、私はチラシやポスターの印刷、そし

て会場設備の確認や主なお客さんへの連絡に奔走するのだった。音楽班が作曲と演奏に励んでいるころ、学生表現団体 ClubMSTRD（クラブマスタード）の堀太誌や庄司久人や林浩一郎、自由研究セミナーのメンバーたちが日吉の研究室「来往舎」のスタジオ編集室で映像制作に励んでいた。雷の実写、樹木の絵、CG による雷ダンス、ヴィクトル・ユゴーの神秘的で禍々しいデッサンの数々。圧巻は『わが運命』の大波を動かして呑み込まれそうな気持ちにさせる画像と、ユゴーが亡命地ガーンジー島のオートヴィルハウスのバロック趣味のインテリアを稲妻が照らす画像、『嵐』の雨の映像を本当に降っているように雨脚を動かしている画像だ。こんなことまでパソコンで学生たちはやってのけた。庄司君は最後の 3 日間は徹夜同然で映像と音楽のシンクロに携わった。こうして出来上がったのが『魔神～ LES DJINNS』なのである。

2003 年度慶應義塾大学通信教育部主催夏期スクーリング語学キャンペーンフランス映画上映会「シャンソン×詩×映像×音楽のコラボレーションライブ」は、I. 映画の中のシャンソン　II. デカルコマニーワークショップ　III.「魔神～ LES DJINNS」「the FAITH ～ song for AFGAIN ～」「ラピスラズリ」というプログラムで行った。通信教育部の学生はもとより、妹尾堅一郎教授、パトリック・レボラール夫妻、音羽電機工業の木村氏など関係者



「魔神」オーディオ・バンド波形全図



「魔神」オーディオ・バンド波形図前半

の方々を含め、大勢の方が来場され、質の高いコンサートであったと称賛された。

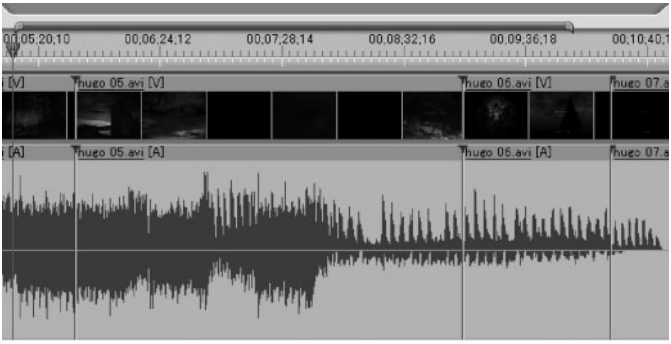
これが最初の交響詩「魔神」であったが、その後、2004 年 3 月の「雷サミット III」でヴァージョンアップし、さらに 2005 年 3 月パリ第三大学でのエキジビションで version3.1 を作り直し、2006 年 5 月日本フランス語フランス文学会の発表時に version4.0 決定版とした。

ヴィクトル・ユゴー『魔神』は、最初は二音節がほとんど静寂のなかから発せられるわけだが、パトリック・レボラール氏の朗読は穏やか声ではじまる。静から動へそしてまた静に戻り消滅へ、といった A-B-A の形式による構成である。意味論的には、死から生そして死へ、テーマチックには、城、都市、海そして死、雷とともに魔神の到来、そして消滅というユゴーのデッサンそのものである。詩の内容は、すべてが眠る広野に物音が生まれ、それが次第に「泣き声」、「鈴の音」「小人のギャロップの音」「ざわめき」「呪われた修道院の鐘の音」「群集の騒ぎ」「魔神の声」「ヒューヒュー音をたてる魔神の大群」「錆びついた古い扉がガタガタいう」「地獄の叫び」「泣き叫び吼える声」「悲鳴を上げる家」「鎖の音」「柏の大木がふるえている」「遠ざかる魔神の翼の羽ばたく音がうすれ」「ばったの音」「霰の音」「奇妙な片言」「波のざわめき」「消えてゆく波の音」「虚空に消える物音」という音の変化が歌われる。私たちの音楽の全体の構成は、以下のタイムラインとヴジュアルバンドと波形で示されている。

前半のクレッシェンドしていくプロセスを見てみよう。

静寂のなかにかすかな雷の爆音と詩の朗読がはじまり、微かに遠雷とシンセサイザーの単純な音の繰り返しが奏でられるなか、［1：40］窓枠からみえる雲が移動している、［1：58］の絵は空と海が切れて移動しているなか、［2：26］に突然の雷の爆音が発せられ、そして［2：48］和太鼓の音、［2：53］コンピュータによる樫の木の絵が挿入される。［3：24］太鼓が転調し、速度が速まる、［3：44］ドラゴンの拡大する画面とともに雷の爆音、［4：20］から次第に音のクレッシェンドが予感される、［4：25］から河口の繰り返し、［4：32］マリーン・テラス、 la porte du château de Gros-Nez,à Jersey、［4：42］雄鶏を描いた「ガリア」、［4：45］荒海の画像に、オークリニエの王という海の怪物がコラージュされ、次第に大きくなるとともに怪物の目玉が動く、音楽がクレシェンドして、詩の頂点 Cris de l’enfer! Voix qui hurle et qui pleure! に達し、［4：56-5：05］「魔神」のフランス語の詩句の活字が活写される。

［5：05］画像の中を浮遊物が流れ飛んでいくシーン、音楽は何かを準備するような繰り返しと難破船の挿入、［5：26］で雷が鳴る蒼い空へ移るとともに、ヘンデルのサラバンドが演奏され、［5：39］同じサラバンドの繰り返し、「Ma destinée（大波）」の波が被るように動き出す、［5：53］嵐の中の古城の画像に浮遊物がクローズアップしてくるシーンとともにサラバン



「魔神」オーディオ・バンド波形図後半

ドの繰り返し（このとき楽節の頭に掛け声が入る）、［6：08］「大蛇」の画像とともにヘンデルのサラバンドの繰り返し、［6：12］「雷の精霊を前にしたジリアット」が写されるがベースは「嵐の中の古城」、［6；21］「狂人」の移動画面など、［6：35］蒼い空でサラバンドの繰り返し、樹木の揺れる画像（これは決定版では別の絵に差し替えられる）［7：05］嵐の中の家と荷車（黒白画像）では、弦を軽快にはじく音が挿入されている、［7：32］青い空のシーンと途中で「嵐の中の古城」の画面でサラバンドの繰り返し、「ガリア」のクローズアップ、「嵐の中の古城」の中の浮遊物がさっきとは逆方向に収束してゆく、［8：11］暗転で、サラバンドの繰り返しは終わる、［8：25］嵐の中の家で雨が降るＣＧで音楽は近未来的な音、そして［8：58］樫の木の画像とともに、［9；14］「アラブ人が角笛を吹いて」で不吉な梟の絵が羽を開いたり閉じたりする［9：50］まで、［10：01］電気ギターのサンプリングそして朗読と近未来的な音、［11：03］朗読のエコーによって終わる。

コンサートでのアンケートの一部を引用しよう。

・自然現象の観察、19 世紀の詩人の詩、現代の人が朗読、クラシックピアノ、シンセサイザー、パソコン、デジタルの稲妻、偶然性を取り入れた演奏に、いろんな可能性を感じました。（30 代女性）

・「雷」というものをこれだけ「かっこよく」演出できているのは本当に凄いと思いました。映像や朗読とも合っていて、感動しました。（20 代男性）

・魔神という題名の果てしないスケールの映画の舞台に迷い込んだ錯覚に陥った。生のピアノの音色と機械の音がここまで一つに融合するとは予想していなかった。一言、かっこいい。（20 代女性）

・太鼓の導入などで雷の底知れぬエネルギーを感じさせ、井口君のピアノがとても激しさを演出していてよい作品になっていました。（50 代女性）

・朗読の音の深さと、画像の中の驚異の美しさに感動しました。同時に奏でられる音楽の与える雷の一瞬のひびきを見せていただきました。（40 代女性）

・ユゴーの文学と、科学と音楽が結びつくなんてとても面白く興味深かったです。（50 代女性）

われわれの試みに可能性を感じてもらえたことが、今後の励みになると思われる。

パリ第三大学「文学と音楽」（アルノー・ラステール担当）における「魔神」のプレゼンテ―ションの際に行ったアンケート調査を報告したい。

Enquête sur DVD ～ Les DJINNS

DVD 魔神に関するアンケート 2005 年 3 月 15 日

23 ans féminin

1）Comment trouvez-vous cet essai, fusion d'image et de son?

Je le trouve très réussi et très original. Il respecte parfaitement la lettre et l'esprit du poème les Djinns. C'était une très bonne idée de déclamer le poème et de le faire accompagner par la musique.

2）Est-ce que vous vous intéressez à cet art «de nouvelle âge»?

23 歳女性

映像と音の融合といったこの試みをどう思いますか ?

とても成功しているし独創的だと思います。『魔神』という詩の文字と精神を完全に尊重しているわね。詩を朗読し、それに音楽を伴わせるのはとても良い考えでした。

あなたはニューエイジのこの芸術に関心がおありですか？

Je m'y intéresse en général modérément mais vos deux réalisations m'ont beaucoup intéressé.

まあほどほどに関心を持っていますが、あなたがたの二つの制作には大変関心をそそられました。

3）Croyez-vous que cette œuvre soit le reflet de la vie de V. Hugo?

この作品はV. ユゴーの人生の反映だと思いますか？

Non, elle est le reflet de son inspiration poétique débordante et de son génie poétique. Non, pas plus que le poème, elle n'est le reflet de la vie de Victor Hugo, mais plutôt de son art poétique.

いいえ、この作品はユゴーのあふれるような詩的インスピレーションと詩的な天分の反映です。いいえ、詩だけでなく、ヴィクトル・ユゴーの人生の反映ではなく、むしろ彼の詩的芸術の反映です。

4）Cette sorte de graphique ordinateur est une transgression de l'univers hugolien ou bien une création artistique?

この種のコンピュータ・グラフィックはユゴーの宇宙の侵犯ですかそれとも芸術的創造ですか ？

C'est une création artistique fidèle à l'univers hugolien.

これはユゴーの宇宙に忠実な芸術的創造です。

21 ans féminin

1）Intéressante. On voit ce poème sous un autre angle. Les images et la musique amplifient l'émotion que provoque déjà le texte.

21 歳女性

面白い。この詩が別のアングルで見られます。映像と音楽がすでにテキストが挑発している感情を増幅しています。

2）Oui, mêler son et image à un

そうですね、一つの詩に音と映像を混

poème, permet de voir ce même poème autrement; avec un œil neuf.

ぜることはこの詩を別な風に見せてくれます。新たな目でね。

3）Ne le prononce pas. Je ne connais pas la vie de Victor Hugo.

そういわないで。わたしヴィクトル・ユゴーの人生を知らないんです。

4）Une création artistique, bien que cela soit anachronique.

芸術的創造ね。時代錯誤ではありますが。

21 ans féminin

1）J'ai trouvé ce mélange très intéressant. Le son se mêle avec harmonie aux images et aux mots du poème. J'ai trouvé très intéressant le passage où les images sont entrecoupées: très chaque coupure une nouvelle image apparaît pendant moins d'une seconde. La musique qui retransmet les 3 temps: calme-violence-calme, fait un bon contraste. Avec la voix toujours sur le même ton.

21 歳女性

この混合はとても面白いと思うわ。音が、イメージや詩の言葉と調和して混じりあっています。さまざまな映像が途切れる移行がとても面白いと思いました。それぞれの区切りに新しい映像が、わずか 1 秒足らずで現れますね。静－動－静という 3 つの時間を中継する音楽は、絶えず同じ調子の声とよいコントラストをなしているわね。

2） Je n'y jamais fait attention, mais je l'ai trouvé original.

注目したことは無かった、でもこれは独創的だと思いました。

3）Je ne connais pas suffisamment la vie de Victor Hugo. Mais elle permet de réunir sa création poétique ainsi

ヴィクトル・ユゴーの人生は十分に知りません。でも、彼のデッサンとともに芸術的想像も詩的創造を合わせるこ

que sa création artistique avec ses dessins.

とが、この作品は出来ています。

4）C’est une création qui réunit différents domaines. Pourtant le texte de Victor Hugo n’y tient plus la place centrale.

これは異なった領域を一つに纏める創造です。けれどもヴィクトル・ユゴーのテキストはもはや中心の位置を占めていません。

25 ans féminin

1）Très intéressant sur le principe, et très bien réalisé.

25 歳女性

原則としてきわめて面白く、またとてもよく制作されています。

2）Oui, dans la mesure où ce n’est pas une œuvre qui regroupe tout ce qui est expérimental, mais où s’opère une vraie démarche artistique.

はい。それが実験的なものすべてを結集する作品ではなく、真の芸術的な歩みがなされる限りで。

3）Ce serait un peu réducteur, mais oui, c’est un reflet intéressant.

少し単純化の嫌いはありますが、そうですね、面白い反映です。

4）Ce n’est absolument pas une transgression, au contraire, cela participe à la vie de l’œuvre de Hugo et à la transmission de son univers.

これは絶対に侵犯ではありません。逆に、これはユゴーの作品の生命と、その宇宙の伝達に立ち会ってます。

24 ans féminin

1）Très bien, je suis enchantée de cette projection.

24 歳女性

とてもいいわ、わたしはこの映写に魅せられています。

2）Non, je ne connaissais même pas.	いいえ、私は知りもしないのです。
3）Peut-être le reflet du sombre regard que portait Hugo sur la société dans laquelle il vivait. Et aussi sur l'angoisse de sa vie. La mer faisait partie de sa vie. Exil.	おそらくユゴーが生きた社会への彼の暗い眼差しの反映でしょう。そしてまた彼の人生の苦悩への。海は彼の人生の一部でした。亡命期。
4）Je pense qu'il s'agit d'un autre regard que l'on peut avoir sur l'univers hugolien. Mais ce n'est certainement pas une transgression.	思うに、ユゴーの宇宙に持ちうる別の眼差しが問題ですね。しかしそれは確かに侵犯ではございません。
Féminin	女性
1）Très intéressant.	とても面白い。
2）Oui,assez.	はい、かなり。
3）Plutôt de son imaginaire.	むしろ彼の想像界の反映です。
4）Plutôt une création qui accompagne l'univers de Hugo.	むしろユゴーの宇宙にともなう創造ですね。

以上

フランスの大学院の学生たちにはおおむね好評であった。そして学問ではなく、芸術作品として　受け入れられたように思われる。学問と芸術、理論と実際、頭脳と身体全体といった両翼をバランスをとりながら、「詩と映像と音楽の融合」の試みは続けられる。

次号に続く